

# 地域に根差した中核病院を目指して、回復期リハビリ病棟を増設

カマチグループの一翼を担う医療法人社団緑野会（蒲池眞澄理事長）は2018年4月、これまで70年の歴史を重ねてきた東芝病院の経営を継承。新たに東京品川病院（瓜生田曜造院長、許可病床296床）としてスタートした。この8月に、改修第1期の工事が終了。回復期リハビリテーション病床を増設し、8月31日、9月1日、9月2日の3日間、地域住民や近郊の医療関係者などへのお披露目会も行った。

同院は人口110万人を抱える東京都区南部医療圏の主要な病院として稼働。同医療圏は、今後高齢化率が急速に進み医療ニーズが増大する一方で、少し足を延ばせば大学病院やナショナルセンターなど高度な医療機能を持つ病院が複数存在している。その中において同院は地域に根差した中核病院として、患者が気楽に受診できる敷居の低い病院を目指す。

もともとは消化器内科など内科系が強い病院だったというが、現在では従来の診療科に、救急科、脊椎脊椎外科、血管外科、乳腺外科など外科系の診療科を開設。特に救急科は、「24時間365日、断らない医療」を掲げ、現在では1日平均14台の救急搬送を受け付けている。また脊椎脊椎外科には当代一流の医師を招き、今後高齢化の進捗とともに増加するであろう圧迫骨折、脊柱管狭窄症などの脊椎脊椎疾患に対応する。

さらには東京都内には5台しかないという、最大8人が同時に治療を行える高気圧酸素治療装置を有し、スポーツ外傷、遅発性放射線障害、腸閉そく、難治性潰瘍、突発性難聴などの治療を行うなど、特徴ある診療を実施している。

医療法人社団緑野会は、東京都心での急性期病院の運営は初めてだが、回復期リハビリ病棟の増設にともなって、同院の急性期病棟への入院患者はもちろんのこと、他の急性期病院の入院患者を受け入れ、スムーズに在宅に戻れる体制を整えている。

現在約700人いる職員は、旧病院からの移籍組や、グループ内の他施設からの異動組など、さまざま混在しているが、今後は、「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」の理念の下、カマチグループらしい新しい組織文化を醸成していくという。



4月から新たにスタートをきった東京品川病院



12床のHCUも稼働している

# 東京品川病院

取材●田川丈二郎



最大8人が治療できる高気圧酸素治療装置



回復期リハビリ病棟も増設された(写真はリハビリ室)



多床室はクロークなどでプライベートが守られている



救急科も新設され、断らない医療を目指す



車椅子からの移乗も楽に行える入浴用の椅子が用意された